

〔平成30年度明専スクール（10／13（土）・11／3（土）～11／4（日）開催）〕

## 明専スクールに思うこと

学務課キャリア教育・就職支援係長 坂口 和代



### はじめに

私が現在の係に異動になったのはこの秋のことでした。それまでは各キャンパスの学務事務所で学生の皆さんと直接接しながら仕事をしていたので、明専塾や明専スクールで「あの口煩い(?)事務の人だ!」と思った方もいるかも知れません。学務事務所にいると、ついこの前まで高校生だった学生さんが院入試や就職活動、海外派遣、学会参加、インターンシップ等を通じて成長していく姿を目の当たりにすることができるため、学生さん自身の努力は勿論ですが、指導に当たられた先生方のご尽力を日々感じていました。

異動後に感じたのは、多くの卒業生の方々のご活躍と熱意でした。

好景気の現在、就職率が高いのは本学だけではありませんが、所謂大手有名企業のほか、その分野で名を馳せるオンリーワン企業など、あらためて本学の就職先企業の質の良さに驚かされました。学内合同企業説明会にはブース数を増やしても追いつかないほど、年々申し込みが増えています。就職に携わる職務にある者としては有難い限りです。

では、何故本学は地方にありながらこれほどまでに就職先に恵まれ、実績を残せているのでしょうか。それはやはり本学卒業である先輩方の力が大きいのではないのでしょうか。

### 明専スクール初日

明専スクールのことは知っていましたが、参加させていただいたのは初めてでした。感じたことは様々ありますが、初日に強く印象に残ったのは、講師である卒業生の方々の圧

倒されるほどの熱意と、セミナーの価値を理解しないままに参加している学生さんへのもどかしさでした。

就職担当や指導教員の先生に薦められて明専塾と同じ気持ちで参加してみたなら、課題はあるし、様々な企業、世代の先輩方が熱心に指導してくださり、卒業後も明専会員として会費を納め、支部会その他交流を持つよう勧められ、内心戸惑った方もいるのではないのでしょうか。

学生さんの中にはその熱意を重く感じる方もいるかもしれませんが、卒業後に同窓会と関わる意義や活動する自分の姿を想像できずにいた方もいるのではないのでしょうか。

### 明専スクール2日目

将来必ず役に立つ内容なので前向きに取り組んで欲しいと思いつながら2日目に参加した私でしたが、思わず目を見張るほど、多くの学生さんの表情が初日とは違っていました。

課題を通して、講師の先生方やグループのメンバーとやりとりをしたことで、セミナーの意図を理解し、目的や目標が明確になったからかも知れません。私の目には初日より楽しそうに映りました。

2日目終了後の懇親会では、卒業して数年以内の元明専スクール生の先輩方が、明専スクールで学んだことが就職後にどのように役立っているのか、参加したことを今どう思っているのか、得たものは何だったのかを話してくださいました。

2日間のセミナーと課題の一つをクリアした参加学生の皆さんは、実感を持って先輩方の話を聞いたのではないのでしょうか。



写真1：グループ討議中のスクール生と見守る指導役の先輩方

### 明専スクール最終日

最終日となる3日目は、更に目の輝きが変わっていたように思います。発表の準備や練習があつて大変と言

いながら、その表情はとても楽しそうに見えました。

発表を拝見しましたが、どのグループも素晴らしく、この短期間によくまとめたものだと驚かされました。役割を分担し、各自がその役割を果たし、協力し合ったのが判りました。

更に驚いたのは質疑応答です。

質問がある方と問われて、手が挙がらなかった初日とは打って変わって、時間を切らなければもつと続いていたのではないかと思うくらい質問の手が挙がり、それに答える発表者やグループメンバーもしっかりと自分達の考えを述べていて、たった二、三日でこうも変わるものかと思いました。

修了式では、達成感や満足感に満ちた表情を多々見ることができ、頼もしい言葉も聞けました。

### 先輩方の思い

明専スクールは先輩が行ってくれる、謂わば、模擬新入社員研修です。後輩である学生の皆さんが入社後に戸惑わないよう、即戦力になれるよう、できれば同期の中で抜きん出てくれるよう願って、先輩方が公私



写真2：グループ討議の発表後の質疑応答の様子

共に忙しい中、何度も打ち合わせを重ね、実践で即役立つ内容や講師を吟味して提供くださっています。

課題の一つ、グループ討議は参加学生から経験できて良かったという声が多々ありましたが、明専スクール卒業生も一番に挙げていました。

就職すれば、同じ専門分野の人間だけで仕事をすることはありません。同じ工学系でも専門が異なれば基礎知識が同じという前提では話せませんし、プロジェクトのメンバーには文系の方もいるかも知れません。その中で自分の意見を的確に説明し、

相手の意見も理解しなくてはなりません。専門分野が異なる仲間とのグループ討議は明専スクールが初めてで、就職後その経験が大いに活きたという先輩方の貴重な声でした。

もう一つの課題、出張報告書では、大学のレポートと考え方、書き方が違うことを学べて良かったという感想が多く聞かれました。もし学ばずにいれば、何が良くないか判らずに、評価を下げていたかもしれません。

多くの場合、就職後に失敗して気付き、在学中に気付きの機会を与える、それが明専スクールという先輩方の贈り物だと感じました。

出世なんてしなくてもいい、そう思う方もいるかも知れませんが、でも評価が低すぎるのも、ですよね。これから長く働く就職先で失敗するのと、在学中に先輩方の指導のもとで経験しておくのとではどちらが良いでしょうか。

人脈作りも同じです。入社間もない頃は同期との交流が楽しいでしょうし、部署内にも上司や先輩がいて、わざわざ同窓会を通じて社外の方と、ましてや世代の違う方と交流する必要はないと思うかも知れませんが、例えば出世頭ではなくてもいず

れ人脈の必要性を感じる時が来ます。残念なことに人脈はその時になって一夜漬けという訳にはいきません。だからこそ、先輩方は明専スクールで知り合った他分野の仲間を大事にしなさいと仰るのだと思います。

### 最後に

講師の先輩方は、ご自分が学生時代に先輩に世話になったから後輩に返すのだ、後輩である皆さんにもそうあってほしいと仰いました。

それは本心だと思いますし、そうして繋ぐ伝統は素晴らしいものだと思いますが、恩恵を受けるのは果たして在学中だけででしょうか。

人生で数回、明専会から後輩の前での挨拶を依頼されるかもしれません。ですが、それで良い後輩が育ち、入社してくれ、社内に卒業生が沢山いて、本学の評価が高い中で仕事ができる、更には分野や世代を超えた人脈が築ける等々、これって物凄くプライスレスなことかもしれません。一回でも仕事の成果・評価に繋がれば、一生分の明専会費を払ってもお釣りがくるかもしれませんよ？ どうですか？ 明専スクール、参加してみたくありませんか。